

潮騒通信「どっこい生きてます！」

話は下手でも魂が響き合う関係をつくりたい

私は回復の歩みが10年近くになりますが、反社会的な世界でクスリ(覚せい剤)とアルコール漬けの生活が長かったことから、それら依存症の後遺症が今になってひどくなっているのを思い知らされています。もちろん寄る年波から集中力や記憶力の衰えは隠せませんが、思考がとても苦手になっています。後遺症から時折、頭の中が真っ白になってしまうことも多くなりました。困るのは、あいさつの場面です。突然、失語症のように言葉に詰まってしまい、混乱する場面が増えました。

そのため、公的な集まりなどでは失敗しないようにと、事前にあいさつ原稿を書いて一通り練習をすることにしています。しかし、原稿に頼るあまり、あいさつが原稿の棒読みになってしまい、会場を白けさせることもしばしばです。政治家のような“お偉いさん”ではないのだし、一言一句に神経をとがらせる必要はないのですが、こんな私でも世間からすれば責任ある潮騒JTCの「顔」だけに、醜態は見せられないと身構えてしまいます。毎日のミーティングのように、仲間たちの前でなら少しも気にならないのですが、やはり一歩外に出て社会との付き合いとなると、つい背伸びしてしまいます。その意味では、まだまだ人前で丸裸になれない自分がいます。古希を目前にして内面の成長の未熟さはどうしようもありません。

よくダルクやマックのフォーラムでは、見事なあいさつをする施設長や会場を沸かせる仲間たちの熱いメッセージに接します。中には巧みに会場の笑いを誘い、まるで“話芸”の域を感じさせるスピーカーもいます。その場の雰囲気や参加者の反応を見ながら、どれだけ多く話の引き出しをもっているのだろうかと驚かされます。才能なのか、回復のレベルが高いのか、とにかく私には羨ましい限りです。「大事なことは自分に正直になること」「自分の問題をさらけ出し、できるだけ多く恥かきの場面をつくること」「人前で恥をかいた分だけ依存症者は回復できる」。先行く仲間から、そう教えられてきました。でも、いくら場数を踏んでも生来の口べたはどうしようもありません。そのことを認めた上で、ハイパーパワーは私に自分が自分の問題に素直に向き合える表現手段として、俳句の世界の魅力を教えてくれました。相変わらず話すことは苦手な私ですが、俳句の世界でなら不思議と丸裸になって自分を素直にさらけ出せているように思います。

昔は任侠道に生きる男として、余計なことは言わず、寡黙にどっしり構えている姿を理想としていましたが、社会活動の当事者となってからは「自分がやっていることを自分の言葉できちんと説明できないといけない」と思い直しています。もちろん話芸を売り物にする芸人のように饒舌である必要も、大向こう受けを狙う必要もありません。話は下手でも謙虚に本音で自分を語ることに心掛け、魂の深い部分で響き合える関係を築きたいと思う今日この頃です。(施設長 栗原 豊)

SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2012年

7月号 一部100円

Contents

- P1 魂が響き合う関係を
- P2 施設キャンプ楽しむ
- P3 フォト・キャンプ特集
- P4 ファイザー中間報告
- P5 第2回P推進委開く
- P6 各地のイベント参加
- P7 宮崎ダルクと分ち合い
- P8 我が回復物語ちな
- P9 近藤氏インタビュー3
- P10 受刑者からの便り
- P11 しおさい文芸コーナー
- P12 行事予定&献金献品



今年も施設前の潮騒フラワーロードに花の苗を植えました

～勾玉作り、フラネタリウム、ビンゴ、バーベキュー～

童心に帰り施設キャンプを楽しむ



●昨年の反省から運営がスムーズに

昨年に続き、2回目の取り組みとなった潮騒 JTC キャンプイベントが7月9、10の両日、県西部の境町にある茨城県施設さしま少年自然の家で開かれました。昨年の会場だった、近くの白浜少年自然の家(行方市)が先約の関係から確保できず、今回は仕方なく車で2時間以上かけての遠隔地における施設キャンプとなりましたが、昨年の反省から下準備に時間を掛け、余裕を持った日程と活動プログラムにしたことや、グループ行動を部屋割りのメンバーと同じ構成としたことなどから運営が比較的スムーズにいき、「来年もぜひキャンプをやってほしい」などの感想が多くあり、参加した入寮者にはおおむね好評でした。

●フラネタリウム鑑賞では心地よい眠りも

さしま少年自然の家は、千葉県に隣接する坂東市との市町界に広がる広大な雑木林内に300人が泊まれる宿泊棟や食堂、体育館、フラネタリウム、天体観測室などが設けられています。屋外には野外炊飯場やヤギ、ヒツジ、シカなど動物とふれあえる動物広場や魚つり場があります。その名の通り、子ども向け施設ですが、大人でも十分楽しめます。

参加者たちはキャンプ初日、昼食後しばらく休憩を取りフラネタリウムを鑑賞。大宇宙の神秘にふれましたが、昼食後に加えてリクライニングシートに丁度よい暗さも手伝って、星座の説明が子守唄となって心地

よい眠りに誘われる人もいました。続いて勾玉(まがたま)作りにチャレンジ。昔懐かしいロウセキを使って、太陽と月をシンボル化した形状の勾玉にするためにヤスリなどで根気よく磨き、世界に一つだけ自分の勾玉を作り上げました。入寮者の皆さんは、すっかり童心に帰って夢中で制作に励んでいました。

夜は自助グループのミーティングがあり、いつもと違う会場の雰囲気の中、それぞれが抱える依存症の問題と向き合いました。2日目は朝食後に休憩をはさんでビンゴ大会があり、施設側が参加者全員に行き渡るよ

うにと用意した各種景品をゲットしていました。そして昼は楽しみにしていたキャンプ恒例のバーベキューでしたが、大所帯の準備作業にもかかわらず、これまでに何度か経験していたことから火起こし、調理、後片付けと各班とも手際よく進み、これでキャンププログラムの全日程を終えました。

●喫煙場所を守れないモラルの低下も

後日の反省会では、スタッフから「全体的に段取りがよかったので個別の企画の流れがスムーズだった。やはり早い段階から準備に入ることが大切」「今回は役割分担がしっかりしていたので、移動などに手間取る事がなかった」「身体や精神的に障害を持つ入寮者に対する対応では課題を残した。車いすも2～3台用意し、重い症状の入寮者にはできるだけスタッフが寄り添う必要がある」「一部の入寮者に喫煙場所を守れないなどモラルの低下があり、注意していないと潮騒全体が迷惑を被って、あちこちの公共施設がどこも使えなくなる」などの反省意見がありました。

参加した入寮者からは「来年は釣のできるキャンプ場にしてほしい」「真夏だときついので、今回ぐらいの時期に取り組むのがベター」などの感想や意見が聞かれました。

(イチ)



高齢者・さしま少年自然の家キャンプ写真集



※キャンプは自主活動が基本。今回は前年の反省を踏まえ、部屋割りのグループごとに各班がよくまとまり、食事や移動、各種企画への取り組みもスムーズに이었습니다。



※勾玉（まがたま）作りでは童心に帰って夢中になり、バーベキューは手慣れたもの。入寮者の絆が発揮されました。



ファイザープログラム中間報告会に参加

潮騒JTCは今年1年を掛け、ファイザー製薬助成事業「ファイザープロジェクト」に選定され、依存症者の就労支援プログラムの開発を目指して各種事業に取り組んでいます。1年の振り返り時期を迎えたことから半年間の実践を振り返って検証し、後半の6カ月間の計画と実践をより実りあるものにしようという趣旨で、ファイザープログラム事務局による中間報告会が6月30日から7月1日までの日程で開



かれました。会場はホテルを思わせる都内の豪華なファイザー研修施設で、潮騒からは栗原施設長ら2人が参加しました。報告会には新規助成を受けた12団体がそれぞれパワーポイントで前半の取り組みを報告し、経験交流を通して幅広い助言を受けました。2日目にはグループワークがあり、各団体とも公的支援が得られにくい中、自助努力で頑張っている様子に接して、どこも大変なんだと実感しました。各団体とも経費の捻出やボランティアの人材確保、専門家の支援やノウハウの蓄積などで共通の課題にぶつかっており、光の当たりにくい活動分野に支援の手を差し伸べるファイザープログラムの意義を改めて噛みしめ、後半の取り組みをより充実させようと決意を新たにしました。潮騒では2年目となる来年度も選定を受けられるよう頑張ります。以下は今回報告した概要です。(勝)

「薬物・アルコール依存症者の自立支援および就労プログラム開発モデル事業」

＜概要・目的＞

- ▼薬物・アルコール・ギャンブル依存症者が社会復帰して自立した生活が営めるよう、職業訓練や就労支援の体系化されたプログラムを開発する
- ▼プログラムの実践を下支えする地域ネットワークを形成し、受け皿となる雇用環境を整えることで全国のモデルケースを目指す
- ▼依存症者を生活保護受給者から納税者として育て上げ、依存症問題に対する地域の誤解や偏見を取り除いていく

＜受け皿となる各種の職業訓練＞

- シイタケの栽培・収穫～①仕事プログラムとして3年前から取り組む②2年間は失敗、今年初めて収穫③放射物質(セシウム)汚染被害を乗り越えて③安定的な生産体制で今後はいかにして収益事業にするか
- 家屋解体作業の受託(2月、6月)～①職人の指導で解体ノウハウの習得②重機に頼らない手作業を中心に③安全に配慮しながら体で覚えるスタイル④地域ニーズの掘り起こしに期待
- 荒れ地の開墾、畑地整備～①支援者保有の荒れ地600坪(約2千平方メートル)を開墾②サツマイモの苗を植え付け、秋にはダイコンも③重機(パワーショベル)の操作訓練にもなる④地中深く根がはびこり、除草作業に苦労
- 水田づくりと田植え作業(4～5月)～①トラクター、

- 田植え機操作の習得②農業体験ある入寮者が他のメンバーを引っ張る③青空の下で体を動かすことで気分をリフレッシュ④地元農家が年間を通じてノウハウを伝授
- パソコン研修(2月から半年間、週に1回のペースで開催)～①初心者向けに文字打ちを中心に②飽きやすい資質の多い参加者の興味関心を引く工夫に腐心
- 雑木林の伐採と運搬・片づけ作業～①樹木伐採のノウハウ、作業手順を身につける②ユニック車の操作、チェーンソーの使い方を習得

＜活動から見えてきたこと＞

- 施設内にいるときにはない目の輝き
- 心地よい汗を流し、ご飯がおいしい
- 仕事を任されているという自信と誇り
- 一つのことをやり遂げたという達成感
- 過去の仕事経験やノウハウ、免許が役に立つ

＜反省点と今後の課題＞

- ▽企画内容を欲張り過ぎ、一部計画が未消化に
- ▽入寮者の特性や潮騒が置かれた客観条件から農業分野を柱に特化すべき?
- ▽全員参加とならず、「金にならないならやらない」の声にどう対処するか?
- ▽生活保護で守られすぎ、自立への一步を踏みだせない
- ▽就業時間と自助グループ参加の折り合いが難しい

第2回ファイザープロジェクト推進委員会開く

★事務局から半年間の取り組みを報告。今後の職業訓練は農業に特化する方向へ★

潮騒JTCが今年1～12月までを計画期間として取り組むファイザープログラム助成事業（「薬物・アルコール依存症者の自立支援および就労プログラム開発モデル事業」）の推進母体となる「潮騒JTC・ファイザープロジェクト推進委員会」（委員長・栗原豊施設長）の第2回会合が7月5日、鹿嶋市宮中の潮騒ダイケアセンター（仮称）であり、事務局側が今年前半の取り組みについて報告し、これを受けて委員の皆さんから貴重な意見や提言をいただきました。

冒頭で栗原施設長が、潮騒初の大型事業とあって欲張り過ぎ、一部で未消化な計画があること、「お金にならないなら疲れるだけ損。自分には関係ない」という否定的な入寮者がおり、今後プロジェクトをどう全体化していくか、生活保護受給が自立への一歩を阻むという逆説的な問題などを指摘。「皆さんからの貴重なアドバイスを後半の取り組みに反映させ、活動を充実させます」と決意を述べました。続いて事務局からパワーポイントによる中間報告があり、農業分野の事業に取り組んだメンバーの体験発表もありました。

ファイザープロジェクトは今後、後半の取り組みとして職業訓練を農業中心に集約・特化する方向性や重機・農業機械の操作訓練、ハローワークとの連携模索、就労支援地域ネットワーク会議の設置、積み残した先進地視察研修、潮騒公開フォーラムとドッキングさせた就労支援フォーラムの開催（11月11日）、啓発冊子の作成（1年間のまとめ）など

の事業を予定しています。

これらを踏まえ、各委員からはファイザープロジェクトへの連携・支援が可能な点について貴重な提案や意見をいただきました。主な意見では「現行制度で実施している障害者対象の事業で連携が可能」（ハローワーク鹿嶋）、「地域への啓発で連携が見込める」（鹿嶋市障害福祉課）、「精神障害者の職親制度を応用できるのでは」（茨城県潮来保健所）、「勤務する病院には体系化した就労訓練プログラムがあるので、ぜひ参考にしてい

ほしい」（秋元病院ケースワーカー）など。水戸保護観察所の方からは刑の一部執行猶予問題の現状にふれていただき、自助グループの仲間や地元の支援者からは、潮騒への熱い期待と具体的な連携の提案をいただきました。



ファイザーP推進委員会に参加して～第2回推進委員会に参加して、「もう半年なんだ」と改めて時間の早さを感じました。振り返ると、プロジェクトを手掛けて施設は慌ただしくなりましたが、それなりに順調に進んでいると思います。この前は施設ミニフォーラムがありましたが、プロジェクトにかかわっている人達はやる気満々で頼もしく感じました。自分としては施設内の日常業務に追われ、プロジェクト関連の作業に出られない場面もありましたが、体が空いている時には積極的に参加してきたので、微力ながらも力になれたと自負しています（特に電気、設備関係）。次回の第3回会合には、それなりに結果も出ていることと思います。その時を楽しみにしています。（リュージ）

ファイザープロジェクト推進委員会＝潮騒ファイザープログラムを主管する。年3回開催。地元行政、ハローワーク、保健所、保護観察所、病院、地元事業者、職業訓練受託農家、自助グループ代表、ダルク関係者らで構成し、事務局の報告を受けて指導・助言する。傘下にワーキンググループ（毎月会議）を設置。

各地でフォーラムやコンベンション相次ぐ

この間、川崎ダルク 8 周年記念フォーラム (6 月 15 日、川崎市産業振興会館)、みのわマック 34 周年記念感謝の集い (6 月 17 日、東京都板橋区内)、横浜ダルク・フォーラム (6 月 24 日、横浜・二俣川カトリック教会)、第 8 回 NA ジャパン・リージョナルコンベンション in 東北 (7 月 6 日、仙台国際センター)、茨城ダルク 20 周年記念フォーラム (7 月 15 日、結城市・アクロス) と熱いイベントが続きました。



←6月15日に仲間と川崎ダルクのフォーラムに参加しました。本来であればフォーラムの感想を記すべきですが、僕自身施設につながるまで川崎近辺に住んでいたのも、薬物まみれで生活していた記憶がよみがえり、会場では平常心ではいられず、ソワソワしていて誰が何を話していたのかもよく覚えていません。今やっと1年半クリーン期間を伸ばしていますが、使っていた場所に戻ると危険で不安なんだということを実感しました。今回は仲間と一緒に居てくれたから問題が起きませんでした。仲間と共に行動をして、乗り越えられたことに感謝します。

(アディクトのユウ)



みのわマック 34 周年記念感謝の集いでの一コマ ↑



仙台コンベンション
の夜イベント? ←



エイサー (琉球太鼓) で盛り上がった横浜ダルクフォーラム ↑



茨城ダルク 20 周年記念フォーラムは太鼓の競演がメイン。代表の岩井さんのカリスマ性を感じさせるステージで、延べ 1000 人が集まり、節目を祝いました。茨城から巣立った施設長らも勢ぞろいして、懐かしい裏話も披露されました。先輩施設として学ぶことの多かった記念フォーラムでした→



船出間もない女性部門の運営に勇気と希望

＝宮崎ダルクとのフェローシップ～仙台コンベンションを前に潮騒へ＝

宮崎ダルクの代表、施設長との出会いは、3、4年前のJCCAC総会の会場でした。私が困った顔をして端っこに座っていると、「遠慮しないで参加していいんですよ!」と、こうさんとみかささんに声をかけて頂きました。それから、みかささんとは研修会やフォーラムなどで年に2回ぐらいしか会う事ができませんでした。私は会うたびに気になっていました。そんなある時、アパリフォーラム後の食事会で彼女と出会え、その時に施設の悩み事を聞いてもらいアドバイスを頂いて、距離感が近くなったと私なりに

感じ、「施設に遊びに来て下さい」とお願いしたら、来て下さいました。そこからは急速に分ち合いができました。韓国ではこうさんにまでお会い出来て、感激でした。体調が悪いのに、私達に合わせて頂きありがとうございました。とても楽しかったです。

そして今回、宮崎の女性の仲間達が仙台コンベンション前に施設に立ち寄ってくださり、フェローシップの時間がもてました。潮騒JTCでは今年1月から女性の仲間が入寮しており、今では私を含め5人の仲間がいます。念願だった女性入寮者ですが、本当は不安

と恐れ、複雑な気持ちで一杯でした。男性の仲間とも、毎日問題ばかりで神様は私にどれだけプログラムを与えてくださるのか?と自分の病気の重さを受け入れて来ましたが、まだまだ私には必要で女性の仲間

が与えられました。船出をしたばかりの女性部門ですが、男性の仲間より大変な毎日を経験させて頂いています。なにしろ私が5人いるような状態ですから、そりゃ大変です(笑)。

…でも宮崎の代表の話を知ると、彼女も大変な経験をしていて、私だけじゃな

くみんな同じなんだと、彼女からも勇気を与えられました。宮崎の仲間とのプログラムで思いっきりハグをしたり、笑ったり、食べたり、とても楽しかったです。仲間の笑顔は素敵だったけど、みんな重い病気を抱えていて辛いのに、私達仲間に気を使ってくれてありがとうございました。代表の苦労が伝わりました。私も潮騒の仲間との分ち合いを楽しんで行きたいと思っています。…こうさん、また楽しいお話をして下さい! 宮崎へも遊びに行きます。(ルミ)



気づきに感謝

先日、みのわマック感謝の集いに潮騒の仲間と参加してきました。新しい生き方をつまづきながらも、ここ鹿嶋の地で様々な経験をさせて頂いています。そのきっかけをもらったのが、みのわマックでした。当時、世間知らずの私を、仲間がいろいろな形で支えてくれていたのに、それを感じとれなかったのは自己中心的な自分のせいです。ひたすら反省の日々です。

なかなか頂いたものを手渡しできない自分ですが、大事なことは行動すること。それを仲間から気づかせて頂きました。大切な「今日一日」のプログラムをミーティングの中で、そして生活の中で実践すること。これを忘れずに生きようと思います。仲間と共に、成長を願いながら。山本晋一さんから「仲良くやりましょう」とのメッセージを頂きました。(トム)

7月誕生日の仲間たち



左からマモ、チョー、リン、ケン坊の皆さん

★自分を変えて行く楽しさ★～私は今年の 1 月から 4 月まで、宮崎ダルクへ入寮していました。宮崎ではとにかく問題児で仲間全員に暴言や暴力を振るい、入院などで迷惑を掛けっぱなしでした。4 月の初めに代表から「茨城の施設に行きましょう！」と提案され、飛行機で空港に着くと潮騒のスタッフが迎えに来ていて、不安な気持ちと、道中地元を思い出す風景に懐かしさを感じる事もありました。初日から潮騒 JTC でも自分の思い通りにならない事で、仲間やスタッフに暴言、暴力、宮崎に居る時と同じ事をして、部屋に隔離され、そして入院…何も変わっていません。入院しても問題ばかりで、強制退院させられるし、「私は何をしているのだろう！」施設に帰って来て一人部屋で自分を見つめるプログラムが与えられ、毎日食事以外ほとんど誰とも会えず、何もする事が無く眠くなるばかりでした。矯正施設では独居でもあきらめて受け入れられたのに、自由で縛りの無い環境なのに「今度問題を起こしたら、私の居場所はどこにも無い」だけ我慢する事は私にはとても辛いことでした。そしてプログラムに参加できない、女性の仲間に入ってもらえない毎日が 1 週間続き、我慢が限界に達する頃スタッフから明日じゃがいも堀りがあるけど行ってみる？と提案があり「私は行きたいです」とすぐ返事しました。久しぶりに外での作業なので興奮しました。女性の仲間とお昼のお弁当もおいしく食べて幸せな一日でした。「このまま毎日楽しいプログラムが与えられたらいいなー」とお祈りしていると、次は施設の前のフラワー

「自分を変えるプログラムをやらないと何も与えられないんだ。」

ードにお花を植える作業が与えられました。問題を起こさない様に私なりに努力をしていると、何だかしたい事が出来ている。そうか、やっぱり自分を変えるプログラムをやらないと何も与えられないんだ。私は大阪の施設にも居たのですが、どの施設の仲間

わたしの回復物語(アディクトのちーな)

も「12 ステップ、自分を変えるプログラムだよ」と教えてもらっていました。だけど私はすぐ忘れ、自己中心的な行動ばかりして生きてきました。「だから、生きづかったんだ」…でもとにかく努力していたら、川崎、横浜ダルク、みのわマックフォーラムに参加出来たし、宮崎ダルクとのフェローシップがあり仲間にも会えたし、仙台コンベンションにも参加出来て私は最高にハッピーでした。宮崎の仲間とも 3 か月ぶりに会えました、みんな私の事を受け入れてくれてありがとうございます。潮騒に来て明るくなったね。と宮崎ではスマキ事件など問題を起こすたびに「すみません」が言葉になり、その語尾は暗く低かったそうです。今その語尾は明るく伝わるそうです。自分ではどこが変わったのかよくわかりませんが、私は嬉しいです。…あとから聞いた話なんですが、実は私がいろんなところに行けたのは、ハイヤーパワーのおかげですが、ルミさんに「ちーなを施設に置いていくと問題だから一緒に連れて行っただけです(笑)」と言われて、そっか！そんなにすぐに何でも与えられるわけじゃないなーと笑い話となったのですが、やっぱり私は幸せです。仲間感謝します。(ちーな)

●全国の仲間たちと存分に分かち合い

NA コンベンション仙台に行ってきました。仙台は僕が育った所です。青春時代を仙台で送りました。最後に暮らしたのは 10 年も前です。やはり街は所々で変わっていましたが、存分に思い出にひたっていました。

コンベンション会場は仲間、仲間、仲間であふれ返っていました。大きな会場でしたが、全員は入りきれなかったと思います。中には、古い付き合いの見知った顔もあり、「ああ、やっぱりみんなまだ NA につながっているんだなあ」と、いい意味でパワーをもらいました。内容は、ほとんどオーブンスピーカーがメインのステージで、共感できる話が続きました。

会場では NA グッズを販売したり、女性だけのクローズドミーティングやステップセミナーもあり、全国の仲間たちと存分に分かち合うことができました。僕たち潮騒メンバーの参加は 2 日間だったけれど、昔よく通った定食屋にみんなを案内したり、NA の T シャツをお土産に買ったり、ホテルから夜景を見たり、仲間とハグもあったりして、とても思い出に残るコンベンションでした。楽しかったです。(エン)

近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL3

「マックをやってみて気付いたのは、一緒にいるだけでいいんだ、ということ。」

—近藤 ロイさんは並み居るアル中の中から僕を選んだ。なんで選んだのかよく分からないが、責任者になぜか僕を選んだ。責任者といったって、ペンキ塗ったり、看板作ったりするだけだから、別にどうってことはない。困ったのは、アルコール依存症でもないのに、アルコール依存症者にメッセージを伝えられるか？ という問題。それは僕の中でわだかまりとして、すごくあった。

—Q 札幌マックやAAの活動をして学んだことはありましたか？

近藤 マックをやってみて気付いたのは、一緒にいるだけでいいんだ、ということ。余計なことを教えたり、教育的なことではない。だって僕なんかよりアルコール依存症の人のほうがよっぽど修羅場くぐっているし、ちゃんと仕事してきた。そういう社会経験は僕なんかよりもはるかに豊かなんだ。社会人としては大先輩たちばかりだった。

—Q アルコールの人たちって結構、社会経験あるんですよね。

近藤 アルコール依存の人たちは40~50代になって手が震えだして、見えないものが見え出して、それまではなんとか社交的に飲んでいたのが、そのあたりから崩れていく。そうしてみると、そうしたのは本人の責任ではないし、売っているものを飲んでしまった。だから「酒害」と呼んでいる。

●薬物よりアルコール依存症の方が厄介かも

—Q 「酒害」について、もう少し説明してください。

近藤 あの考え方もちっとおかしい。害があるものを国家が平気で売っている、ということになるわけだから。その伝でいうと、アルコール依存も広い意味では薬物依存に含まれるわけだから、薬害の一種と言えなくもない。

この考え方でいくと、俺たちヤク中は薬害の被害者だから、害になったのだから国家の援助を受けてもいいのではないかとそう思ったりもする。だけど、もともと国家がだめだっていうものやっているわけだからさ。そこは決定的に違う。一緒ににはできない。

—Q 確かにアルコールは合法的な分、厄介な面がありますね。

近藤 片方はやってはいけない、飲んじゃいけないといっていないから。むしろ国家公認で売らんかな、だ。テレビや新聞、雑誌でCMをバンバンやっている。自動販売機で堂々と売って、税金をとっている。だから、ア

ルコールの人たちは酒害として肝臓を壊して、飲みすぎて肝硬変になって死んでいく。

それは害といってもいい。でも覚せい剤は害じゃないじゃない。そういう意味ではアルコール依存症は私たちよりは数段上ですよ。社会性もあるし。働いて、税金払って、新聞とったら新聞代を払って。そういう能力のある人たち。一方、薬物を使う人たちはどうかといえば、13、14歳からクスリを使い始めて、もう高校を卒業するころには依存症になって、しっちゃかめ

っちゃか。10年くらいやって、その間矯正施設に入れられる、というパターン。

でもアルコール依存症は医療的措置もそうだが、大体刑務所に入っている人たちは傷害か何かで入っている。暴力行為で。気がついたら隣の奴をビール瓶で叩いていたとかいうのが多いじゃないですか。だからそういう人たちに、何かを教えるというのはおこがましい。年も違うし。まあ、新しい空気を吹き込みたかったのかな。当時、開拓者精神に燃えていたロイさんとしてはね。僕に期待していたことは確かだった。(次号に続く)



※マック＝メリノール宣教会が設立したアルコール依存症者のための回復施設。近藤さんはロイ神父とともに札幌マックの立ち上げに尽力し、初代所長に抜擢された。これが自信となり、日本で初めてマックの薬物依存症者版ともいえるダルクを創設。
※AA＝飲酒問題を解決したいと願う相互援助の自助グループ。米国で1935年に誕生し、日本では1975年にスタート。全国に約300のグループがあり、毎日どこかでミーティングを開いている。酒をやめたい人なら、どんな人でも参加できる。

受刑者のみなさんからの手紙～「潮騒通信」を読んで～**■「スリッパした仲間は神」との言葉に目から鱗**

毎月送られる「潮騒通信」が待ち遠しいです。私が関心を持ったのは、入寮者(仲間)が何度もぶち当たる「スリッパ」という言葉です。以前の自分はクスリをやめようと思って過ごせた期間には、絶対に「スリッパ」した人には会いたくない、と思っていたものでした。(依存症や回復プログラムに理解のない者には)それが普通なのだと思います。

しかし、栗原さんのお話の中に「スリッパした仲間は神」「自分を映す鏡だと思ふこと」の指摘を見つけた時には目から鱗でした。もうこれからは一人ぼっちで好き勝手に生きていこうと世をすね、残りの人生を諦めていた自分でも、仲間の中にいれてもらえるのではないかとこの人となら一緒に頑張れるかも? と思えました。…私にはまだまだ先のことになりそうですが、自分のようにならぬよう、若い世代にしっかりメッセージを伝えられる人間になりたいと思います。(北海道・OK)

■「長年の怠惰な生活スタイル」は私にも言える

潮騒通信5月号の巻頭言で栗原施設長が述懐している「回復プログラムに乗れない仲間とどう向き合うか」の文に、自分の甘さを考えさせられました。潮騒に行けることは当たり前と思い込み、最大の目標である薬物依存の回復というキーワードを忘れていたからです。栗原施設長が指摘する「曖昧さ」「いい加減さ」「長年の怠惰な生活スタイル」は私自身にも言えることです。「例え後ろ向きでも前に進むには自分の弱さやダメさ加減に素直に向き合い、謙虚に生きることが大事です」とは、正にその通りだと思いました。(青森県・FO)

■一緒に前を向いて歩む仲間と栗原さんがいる

潮騒は入寮者もスタッフもアルコール依存症の方がとても多いようですが、私は「薬物・アルコール・ギャンブル」の三拍子が揃った男です(笑)。なんともお恥ずかしい限りです。薬物をやめたいと思っていた期間は、その代わりにアルコールを浴びるように飲むという生活を繰り返してきた結果が今に至っている訳です。そんな私も来年にはやっと、出所することができます。この中では、いくら真面目にできたからといっても社会に出たら何の「役」にも立たないことは自分自身が一番よく分か

っています。

出所後に潮騒の一員として厄介になろうと考えている以上、今度は薬物だけでなくアルコールも「断つ」ことを己に誓っております。並大抵の決意ではとても無理だと思います。しかし、一人ではありません。一緒に前を向いて歩む仲間の皆さんがいます。何よりも目標となる栗原さんがいます。余計なことは考えず、栗原さん背中を見ながら付いていうことで、今度こそ人間らしい生き方が見つかると思います。(北海道・OK)

■潮騒の職業訓練事業は本格的なのに驚く

潮騒通信で記されているパソコン教室、シイタケ栽培、潮騒田植えプロジェクトなどの写真を見てしびれました。特に雑木林の樹木伐採や荒れた農地の開墾など農業関連など、職業訓練事業は本格的に取り組まれているようで驚いています。私は幸いにも運転免許は2ト、4ト車も運転できますが、原野と化した荒れ地を重機と手作業で開墾する姿には、ずいぶんと本格的なので自信が持てず少し不安になりました。まだまだ体力をつけなければなりませんし、年のことを考えると尻込みする自分がいます。でも、潮騒通信に刺激を受けながら前向きに考えていきます。(東京・TI)

■今の自分の意識を頼りにすることは無謀で危険

ご指摘の「まず壊れている人格を社会に適応できるまで造り直すこと」はその通りだと考えます。しかし、現在の私の環境と立場では、依存の問題と真正面から向き合っているとは言えません。覚せい剤に対する欲求がないのは、刑事責任を全うするためにだけ整えられたこの場所だから、とも言えます。そう考えると、高塀の威力とは凄いものです。ポン中の煩惱を決してしまうのですから…。「高塀に守られている」とは、正にその通りです。ですから「自己改善」に至っては、私がいるこの場所と社会とでは余りにも異なる環境なので、今の自分の意識を頼りにすることは無謀で危険です。改めて考えますと、私の意識が「自立」という最終的な目標に先走る裏側には、この小さく狭い閉鎖的な世界から逃れたいがために希望というものにすがりつき、その解放感に過敏に反応している結果ではないかと思えます。まだまだ浮いている私を反省しています。(北海道・KS)



しおさい文芸

選者 桐本石見

七月の雨の松島艶ばなし

潮騒・豊

松島は日本三景の一つで、芭蕉も訪ねていますが余りの絶景で発句出来ず、代わりに曾良が「松島や鶴に身を借れほととぎす」と詠んでいます。その松島の七月は梅雨の雨で遠景も霏だし、夜は艶の話に過ぎたのか。「七夕の雨の松島艶話し」などにすれば、星の逢瀬も人の逢瀬も秘めて切ない思いの旅の句になります。

丹田に治むる俠気夏の雲

潮騒・豊

「丹田」は臍の下で下腹、俠気は男気のことだがこの句の場合は何か少し任侠じみた思いかも、その思いも下腹に思い治めて我慢する。夏の雲と言えば入道雲で男気の雲、大きく全てを包み句に相応しい。



北の地で再会したる我が友よ

話のオチはいつも溜息

(北海道・誠)

「交談禁止!」という赤き文字淡く 獄舎の壁に貼りついており

(北海道・章三郎)

久々の晴間に渡る青田風

潮騒・稔

今年の梅雨もそろそろ終りで夏を迎えますが、この水郷や利根の広田の晴間の青田は湖の様で清々しい、そこに吹く風もまた快い。田の沖と言う表現が出来るのもこの水郷地帯です。私にも「息栖野は気吹戸主の青田風」があり懐かしい。「気吹戸主」は凶事を吹き払う神のこと。

初夏の風渡り廊下の向こうより

章三郎

渡り廊下と言えば学校を思い出しますが、この句のは棟を繋ぐ廊下で他の句か思いますに獄舎のかも。その渡り廊下から夏も春も秋も冬の風も来る、しかし、初夏の風は青葉の風でもあり心も和む。渡り廊下は隔離と繋ぎの思いの交じるしみじみとした句です。

春風に押されて老犬歩き出す
鳴く程に闇深くして恋の猫

(北海道・一正)



Information

行事予定 (7月中旬～8月中旬)

- 7月18日 千葉県精神保健福祉センター研修会
21日 秋元病院メッセージ／栃木県精神保健福祉センター主催
こころの健康フェスティバル・薬物依存症セミナー
22日 潮騒・家族会
23日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
27日 プー横町保育園夕涼み会
29日 潮騒・アクションセミナー
30月 7月誕生会
8月12日 秋元病院メッセージ

献金・献品を頂いた方々 (6月中旬～7月中旬)

▼献金を戴いた方

小岩井商事 様
福田 博喜 様
中川 孝二 様
佐々木ひとみ様
根崎 彰 様

▼献品を戴いた方

大類 美幸 様
根崎 彰 様
鈴木 浩二郎様
井上 喜一様
(タイヘイ)遠藤様
宮崎ダルク 様
はまなす農園様
青野 光男 様

☆そのほか匿名の皆様から献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は
全員の方に同封させて頂いております。
どうぞご理解の程をお願いします。

【お願いします!】潮騒JTCでは使わなくなった中古パ
ンコン、中古の車いす、中古自転車などの献品を求めています。
回復活動や日々の生活に必要なので、ご協力ください。

編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

T314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号
T314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)

T314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号
T311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16
TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

T311-2113 茨城県鉾田市上播木1113-39

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

編集後記

ファイザーP推進委で、栗原施設長の妄想
に近い夢(地域における自己完結型の総合
福祉施設「しおさい依存症村」構想)を紹介し
ました。これは地域の支援を得て、多様化す
る入寮者が生活できる総合型回復施設を目
指すというもので、▽NPO法人を核に拠点
のデイケアセンターを立ち上げ、デイ&ナ
イトケアを充実させる▽就労支援プログラ
ムにより社会復帰後の自立を助け、地域で
暮らせるようにする▽厳しい就労環境を見
据え、自分たちで「食べられる」収益構造
をつくる▽障害者自立支援法に基づくグル
ープホームやケアハウスなどの受け皿を整
える▽社会復帰が難しい高齢者の「終の棲
家」や重い精神障害を抱える入寮者が安心
に暮らせる居場所をつくる—というビジョ
ンです。妄想こそ夢の実現の第一歩!(市)

発行所 郵便番号一五七—〇〇七三
東京都世田谷区砧六—二六—二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
(会費を含む) 定価一〇〇円

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。